

# サーキット撮影用にEOS 5D Mark IVを設定する方法

## ■撮影モードをシャッター優先AEにする



左上部のモードダイヤルは中央のロック解除ボタンを押しながら回す



Tv(=シャッター優先AE)にする



電子ダイヤルを回すとシャッター速度が上下する

## ■ISO感度をISO100にする



ISOと書かれたISO感度設定ボタンを押して、電子ダイヤルを回しISO100に設定する

## ■ドライブモードを高速連写にする



DRIVE・AFと書かれたボタンを押し、背面のサブ電子ダイヤルを回す



Hと表示されたら最高速の7コマ/秒となる

## ■AFの動作モードをAI SERVOにする



DRIVE・AFボタンを押し電子ダイヤルを回しAI SERVOにする

## ■測距エリアを選びAFポイントを移動する

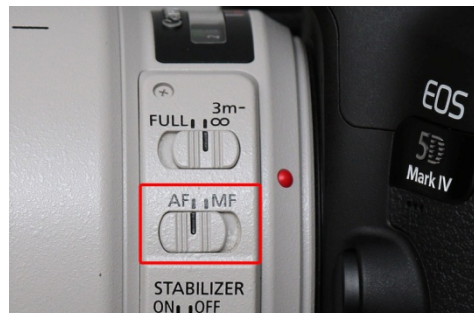


ファインダーを覗き背面右上のAFフレーム選択ボタンを押し、M-Fnボタンで測距エリアを選択する



マルチコントローラーでAFポイントを移動させる

## ■レンズ側の設定をAFにする



レンズ側面、上から2つ目のスイッチをAFにする

さらに詳しい情報は、Car Watchを参照してください。

<https://car.watch.impress.co.jp/>



奥川浩彦のキヤノン一眼レフ貸出体験を120%堪能する方法(前編)



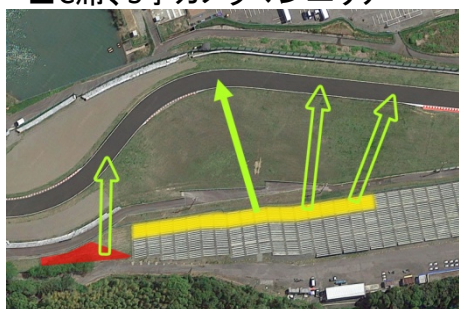
# 鈴鹿サーキットの撮影ポイント



鈴鹿サーキットを疾走するF1マシンを、EOS 5D Mark IV+EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USMで撮影する際のお勧めポイントを紹介しよう。初めて鈴鹿サーキットで撮影する人は参考にいただきたい。

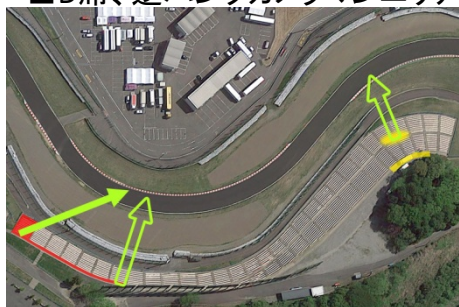
Googleマップ空撮写真の赤色はカメラマンエリア。青色は西エリア、黄色は金曜日自由席(金曜のみ撮影可)の位置。西エリア、金曜日自由席は一般観戦客の迷惑とならないように、周囲に注意して撮影したい。緑の矢印は作例写真の撮影位置を示し、中抜の矢印はその付近の他の撮影ポイントを示している。

## ■C席、S字カメラマンエリア



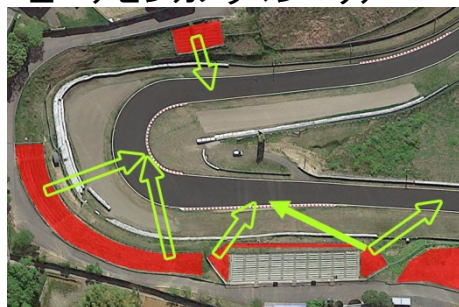
C席は2コーナー立ち上がりからS字進入、S字カメラマンエリアはS字1つ目が撮影できる。C席、S字カメラマンエリアのほぼ全域で100-400mmによる撮影が可能。C席は金曜のみ撮影可。C席上段は観戦客、下段はカメラマンが集まるので、上段の観戦客や回りのカメラマンの視線をさえぎらない場所で撮影しよう。

## ■D席、逆バンクカメラマンエリア



逆バンクカメラマンエリアは鈴鹿の定番ポイント。どの位置からでも100-400mmで流し撮りができる。マシン正面の撮影は焦点距離400mmでは足りない。D席のS字2つ目は金曜のみ撮影可。スタンドの2コーナー側は観戦客が多いのでやや逆バンクよりの中段かスタンド最上段で周囲に配慮して撮影しよう。

## ■ヘアピンカメラマンエリア



ヘアピンのカメラマンエリアは進入から立ち上がりまで、どこからでも100-400mmで撮影できる。クリッピングポイントを正面から撮ることも可能。ヘアピンカメラマンエリアには、土日は「B2ヘアピン入場可」「ヘアピン入場可」しか入れないが、金曜日は「CDEM入場可」のチケットでも入れる。常設席前方エリアは別途「ヘアピン“プラス”」チケットが必要。

## ■スプーンカーブ



最果ての地、スプーンカーブは撮影天国。スプーンへ進入するマシンの正面の撮影は焦点距離400mmでは足りないが、流し撮りは100-400mmでスプーン全域が撮影できる。西エリアの観戦客は土手の上段に座るので、土手の中下段か最上段で撮影しよう。逆バンク→ヘアピン西ゲート→スプーンは徒歩23分ほど。



奥川浩彦のキャノン一眼レフ貸出体験を120%堪能する方法(後編)  
1歩踏み込んだ「チョイ足し」設定と鈴鹿サーキットの“お勧め”撮影ポイント